島根県立三刀屋高等学校 掛合分校
校長発『ほんりゅう』 【１０月号】令和５年１０月６日

■ＲとＶＲ（リアリティとバーチャルリアリティ）

高校生の時、寮内で流れていたラジオ番組の中で、あるアーティスト（確か浜田省吾さんだったと思います）が、「手元にアルバムを買うお金があるならコンサートを観に来てほしい。」と語っていました。今から 40 年以上前のことですが不思議とその時の様子を鮮明に覚えています。その時は「コンサートは１回きりのものだから、好きな曲が何度も聴けるアルバムを買ったほうがいいな。」と思いました。しかし、今ならその発言に賛同できます。アルバムから流れてくる曲は、当然“リアル”なものではなく、録音されたある意味“バーチャル”なものといえます。もちろんそれは一方的に視聴するだけのもので、コール＆レスポンスといった双方向のものではありません。コンサートはその時だけのものですが、だからこそ尊いのだともいえます。同じ時間、同じ空間を共有できるのはそこにいる人たちだけです。そして、共有した経験は深い感動を伴って心の奥底に刻まれます。

コロナ下では、多くの行事や会議などがリモート開催となりました。修学旅行でさえ、“バーチャル修学旅行”として、専用ゴーグルを装着して疑似体験するといった試みもありました。一定の制限下でも何とか工夫して可能な限り行事を実施してあげたいという努力を続けた３年間でした。決してその努力を否定するものではありません。リモートを利用した会議等は移動時間が短縮できたり、遠隔地との交流が容易に可能となったりするなど、特に地方に住む私たちにとってはありがたい一面もあります。ただ、やはりその時間、その空間を“リアル”に共有できる本物の体験にはかないません。

今月、本校・分校とも２年生は東京方面に研修旅行に出かけます。初めて飛行機に乗る人、初めて東京を訪れる人、初めて劇団四季の観劇やＴＤＬでの体験をする人・・・。研修旅行期間中には、様々な“初めて”に接する機会が数多くあると思います。メディア等を通して今まで見たり聞いたりして知っていることでも、訪れてみて初めてわかることがあります。その空間で感じる匂いや温もりといったものはモニターの画面からでは決して体験することはできません。そして自分が描いてきたイメージと現実との差が大きければ大きいほど感動が生まれ、新たな気づきや学びを得ることができます。

今回の研修旅行のコンテンツには、埼玉県の高校生との交流会（本校は児玉高校、分校は小川高校）も用意されています。島根県教育委員会と埼玉県教育委員会は、平成 30 年に高等学校教育に関する連携協力協定を結んでいます。その事業の一環として、２年前には本校生徒と当時の児玉高校、児玉白楊高校（両校は今年度統合し児玉高校となりました）の生徒が、オンライン方式で開催された「島根県×埼玉県高校生交流事業」に参加し交流を深めました。このような縁もあって、今回の交流会が実現しました。おそらく本校・分校の生徒の皆さんは、これまでに埼玉県の高校生と交流する機会はほとんどなかったことと思います。島根県と埼玉県には、気候・風土・言葉・食べ物などを背景としたそれぞれの異なる文化や価値観があります。互いに顔を合わせるまでは、ワクワク感とともに不安感もあると思いますが、生徒の皆さんには、異なる地域に

居住しながらも同時代を生きる同世代同士、それぞれの価値観を確認したり共感したりできる機会にしてほしいと思います。知らない土地で知らない人に出会うことで、自分自身の視野が広がるとともに、自分の住んでいる地域の良さを再発見できることにもつながると思います。

皆さんにとって、３泊４日の研修旅行が有意義なものになることを願っています。

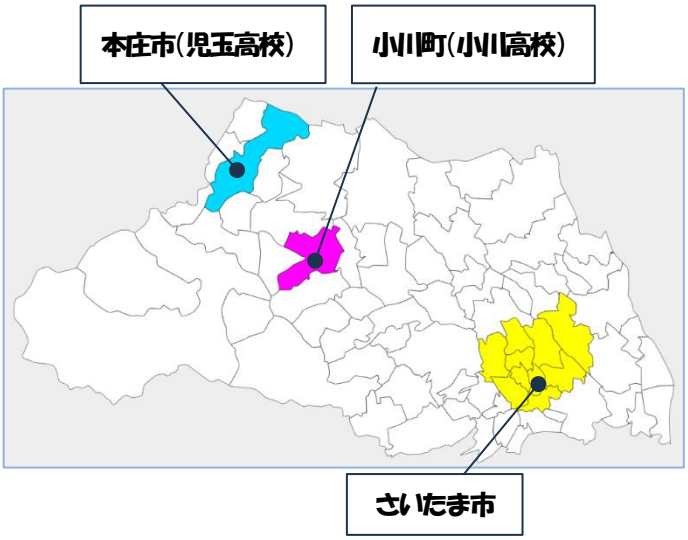
【島根県と埼玉県】

■埼玉県立児玉高等学校

https://kodama-h.spec.ed.jp

■埼玉県立小川高等学校

https://ogawa-h.spec.ed.jp



【基本データ（人口)】

埼玉県	7,331,914 人	（令和５年９月１日現在）
本庄市	77,401 人	（令和５年９月１日現在）
小川町	27,924 人	（令和５年 10 月１日現在）
島根県	649,679 人	（令和５年９月１日現在）
雲南市	35,254 人	（令和５年９月１日現在）

【参考（笑)】

島根県 8,649,679 人（令和５年旧暦 10 月１日現在，八百万（やおよろず）の神様含む）